

真田

真田で楽しく！元気に！暮らしたい人のためのフリーペーパー

いきいき♪

生き生き ふるさと通信

第47号 2015年 10月 1日発行【真田地域に全戸配布】



9月13日（日）アザレアンさなだで恒例「いきいきまつり」が行われました。真田中学の吹奏の皆さんが見事な演奏を披露しました。

秋のひとコマ



かかしの夫婦 手の飲み物に注目！（本原）



庭のキジバトの親子



真田町の社長さん 第20回

(株)アサヒ興業 様の巻

今回御紹介いただいた社長さんは、赤井区「株式会社アサヒ興業」代表取締役社長 若林正徳さんです。アサヒ興業さんの事務所は、赤井区主要道路沿いにあり、看板ですぐわかる場所です。

会社の仕事内容は、給水・下水等の工事・キッチン、風呂、トイレのリフォームを主にされています。

会社を創めるきっかけは、農業を守り、水のきれいな環境維持や健康志向からです。塀や池の修理、木の片付け、ボイラー交換等何でもやります!! とのこと、その仕事にあった専門の従業員さんがいて自信を持って対応して下さるそうです。事務所には住宅改修で賞を取ったというTOTOリモデルクラブの賞状がいくつもありました。とても嬉しい頼もしいです!!



会社名のことをお聞きすると、「朝日が一番先に昇る様に・・・一番に挑戦し、太陽のように輝き、常に違う分野にも進出したい・・・との思いから付けました」と教えていただきました。

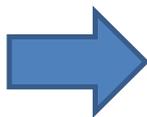
会社をやられていて大変なことは? とお聞きすると、どんな会社でもそうですが、困難なことにも負けないで従業員さんたちの意見など聞きながらここまで乗り越えてきました。それと、こういう仕事なので大きな重機を使用することや危険な場所に行くこともあり、小さなことから事故につながることもありますので、従業員さんが無事帰ってきてくれることが、何よりとのこと、社長さんのお人柄や優しさ、従業員さんに対する思いも感じられました。仕事に対しても、生き活きと様々なことを話して下さい、どんなことでもどんとこい!!というどっしりとした社長さんの仕事に対する思い、懐の大きさを感じました。

嬉しかったことをお聞きすると、『お客様に“喜ばれた時”や“またお願いしたい”と“頼まれた時”はやり甲斐がありうれしいです』との事。『皆さんに末永く会社を愛していただいて、これからもよろしくお願ひします。』とのことでした。

次回は理容うつみ様をリレー訪問させていただきます。



Before



After

【お詫び】

前回、2か所誤りがありました。・前回の社長さんの出身地を福島県と紹介してしまいましたが福井県の間違えです。・次回はアサヒ工業様とご紹介してしまいましたがアサヒ興業様です。ご迷惑をおかけいたしました。

真田地域包括支援センターだより

平成27年10月

今回は、真田中学校で行われた認知症サポーター養成講座と、真田総合福祉センターで開催されたふれあい広場について御紹介します。

真田中学校で
認知症サポーター養成講座を
行いました

真田地域包括支援センターでは、アザレアさんだ・真田地域自治センター高齢者支援係と協力し、H26年より小中学生を対象に「認知症サポーター養成講座」を行っています。今年度第1回目は真田中学校の1年生を対象に実施しました。

認知症を知り、正しい知識を持ってみんなで助け合うことができれば、認知症になっても安心して暮らすことができるのではないのでしょうか。そうした支え合いの輪を広げるために「認知症100万人キャラバン」が始まりました。現在、日本では630万人以上のサポーターさんがいらっしゃいます。まだ、サポーター養成講座を受けていらっしゃらない方、真田地域包括支援センターまでお気軽にお問合せ下さい。



ふれあい広場 in さなだが開催されました

地域の人達とのふれあいを大切にする「平成27年度ふれあい広場 in さなだ」がふれあい広場実行委員会の主催により、真田中学校をはじめ各種団体のご協力により盛大に開催されました。バザー会場は、ご提供いただいた品々でいっぱいになり、多くの方にお買い求めいただきました。



また、パンやジュースの販売コーナーでは中学生が頑張って完売してくれました。講堂では各種団体の体験コーナーが設けられ、親子で見たり、聞いたり、工作など楽しんでいました。フィナーレにはTNSジャズオーケストラによる演奏を間近に聴いてジャズに酔いしれ、興奮の中で終了いたしました。人とのふれあいの大切さを体験させていただいた、一日でした。



真田地域包括支援センター TEL 72-8055 (真田総合福祉センター内)

15年以上前にデンマークに研修に行かせて頂いた際に、ヘルパーの援助を受けながら生活されている車いすの女性が、ボランティア活動をされていました。自分では出来ない事だらけですが、ボランティアに出掛ける女性のいきいきした表情を今でも鮮明に覚えています。

周りを見渡すと、身近な場所で目立たないけれど、誰かの為に何かを一生懸命にされている素敵な方々に出会います。そんな素敵な方々をご紹介します。

2年前の大雪の際に、気持ちよく駆けつけて頂き、汗だくになりながら途方に暮れていた私たちを助けて頂きました。いつかお話を聞きしたいと思っていましたが、今回ようやく実現いたしました。

昔取った杵柄・経験を生かす地域のお互い様

公益法人 上田地域シルバー人材センター

(宮脇寛夫支所長にお話しをお聞きしました)

《雪対策の助っ人です》

「玄関先にいつまでも雪が積もっているのは恥ずかしい」

「いつでも出かける事が出来るようきれいにしておきたい」

「転ばないように気を付けたい」

「家の前の通学路は、子供たちが通る前にきれいにしておきたい」

若い頃のように、一人で雪かきが難しくなっても、雪が積もるとそのままにしておくことも出来ず、暮らしているご本人さんはむろん、離れて暮らすご家族としても気になるところです。

そんな時は、シルバー人材さんにご相談してみても如何でしょうか

依頼をすると宮脇支所長が、どの会員に「雪対策の助っ人」としてお願いするかコーディネートしてくれます。事前に「雪が〇〇cm積もったらお願い」と依頼しておくのと、請け負ったシルバー人材の会員さんが、都度依頼の電話をしなくても、積雪量を見て、駆けつけてくれます。



気になるお値段ですが・・・



一人1時間 1,000円+交通費等(1km20円+事務手数料11%)

2時間もかかるような大雪だと、2人対応で1時間(2人なので、2時間分の請求)支払方法は振り込みか、出かける事が難しい方はご自宅まで集金に行ってもらえます。

シルバー人材センターの会員の条件は。60才以上で、自主・自立・共働・共助に基づき行動出来る方、まさにお互い様の活動です。地域ごとに班があり（長2班・傍陽2班・本原3班）年齢は60才台から80才台。町内139人の会員の内、69%は男性会員。まさに昔とった杵柄、長年培った知識や技術を発揮されるのでしょう。

引き受けて頂ける内容を見せて頂きましたが、大工仕事、除草作業、植木の手入れ、毛筆筆耕、農作業、家事の補助・・・あまりにも多岐に渡っており記載しきれません。お盆・年末間近になると障子貼りの依頼もあるそうです。



宮脇所長と宮崎さん



除草作業の様子



最高齢82才の会員さんは、主にお正月のしめ飾りを作られているそうです。いくつになっても、「誰かの為に何かが出来ると」素敵な人生だなと思います。その為には元気に年を重ねる事の大切さを改めて思います。「誰かの為に何かをする人生」が、いきいきといつまでもお元気で暮らす一番の力なのかもしれませんね。いつかまた、82才の会員さんの取材に行きたくなりました。（望月）

シルバー人材センター 真田支所

〒386-2201

長野県上田市真田町長7178-1

TEL 0268-72-4433 FAX 0268-72-4436

● 和洋酒 ● 米穀 ● たばこ ● 食料品 ● 宅急便

配達OK

営業時間

AM7:30~PM9:00

関 酒 店

本原550-2 有線5765 TEL72-2055



第19回 真田三代の活躍

常田 軍三

七、幸隆砥石城攻略の快挙（その二）

天文17年2月以降、上田盆地に侵攻した武田軍は、北信濃、坂城の雄村上義清の勢力を殺ぐべく、「上田原合戦」や、「砥石城攻略戦」のため駒を進めてきました。しかし、長駆甲斐の国から出陣してきた戦備や戦術の不備もあって、この二つの戦いは勝利の栄光を手にはできませんでした。前者の戦いは、大将の信玄自身が戦傷を負い、重臣の甘利虎泰、才間河内、初鹿野伝右衛門などが戦死する始末でした。

戦いに「もしも」という話はいかがなものか、と指摘されるむきもありますが、勇将の一人小山田信有の働きがなければ、武田方は全滅の憂き目を見るほどの大敗北であった、と伝えられています。

さらに、天文19年の8月から9月にかけての後者の戦いでは、1か月余にわたって3千の兵による包囲攻略戦であったにもかかわらず、城を攻略することができず、逆に横田備中守を戦死させるという損失を蒙りました。

その上、長期にわたる包囲戦の末、砥石城からの撤退作戦に転じた時、思わぬ村上軍の抵抗に逢うという鋭い追撃を受けました。この追撃戦の模様を、『高白斎記』は次のように記しています。

村上軍の追撃にあって、武田軍の殿軍は、踏みとどまっては戦い、踏みとどまっては戦うという、まさに死闘に次ぐ死闘でした。撤退は卯の刻に始まり殿軍は、終日追撃の村上軍と戦い、酉の刻に武田軍が敗北して終わったにもかかわらず、後世に残した甲斐の戦記は「砥石崩れ」と称して悔しさをにじませています。砥石城攻防戦の武田軍の死者は千人とも五千人とも言われ、武田軍の戦歴上これほどの敗北は他に例を見ない戦いでした。

発行元：「真田 生き生きふるさと通信」広報委員会 事務局：高齢者総合福祉施設アザレアンさなだ内
〒386-2201 上田市真田町長 7141-1 有線 2111

TEL 0268-72-2781 FAX 0268-61-4010 E-mail keijinfukushi@azarean.jp

ホームページ <http://www.azarean.jp>

イベント情報や、通信を読まれてのご意見、ご感想をお寄せください。